

久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会 令和7年度 第1回会議 会議要旨

日時	令和7年10月21日（火） 18:30～20:00
場所	久留米市公社会館（メルクス） 3階会議室
出席者	委 員：牟田委員、岡委員、吉永美恵委員、真木委員、大内田委員、柴田委員、古村委員、重永委員、江上委員、濱本委員、樺委員、吉永美佐子委員、今村委員、桑野委員、米村委員、古賀委員、井上委員、後藤委員、田中委員、木原委員 事務局：・長寿支援課 古賀課長、植松補佐、中尾補佐、鹿毛補佐、城戸主査、稲益主査、岡本、野田 ・介護保険課 西村課長、野田補佐、坂井主査、小川
欠席者	森田委員、塩澄委員、緒方委員、柿原委員
傍聴者	なし
議事次第	1 開会 2 報告 (1) 久留米市第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の進捗状況 3 協議 (1) 久留米市第10期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定に向けた各種調査の実施について 4 その他 (1) 今後のスケジュールについて 5 閉会

議 事

1 開会 ＜事務局＞ 2 報告事項 (1) 久留米市第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の進捗状況 ＜事務局＞	これより、令和7年度第1回計画推進協議会を開催いたします。 次第の2番「報告事項」に移ります。 「第9期計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。 「第9期計画の進捗状況」の報告の前に、まずは、前回会議にてご意見やご質問いただいた内容について回答いたします。 まず、まちの姿成果指標の3つの指標について、年齢層ごとに見たときに差があるのかという質問に対して、回答いたします。 「自分の力を活かして、健康で自立した生活ができるまち」にて「健康であると回答した方の割合」は、年齢が上がっていくにつれて健康であると答える方の割合は減少する傾向がみられました。 「見守り、支え合いの心が生きるまち」の「地域での支え合いや助け合いが充実していると回答した方の割合」は、年齢による変化はありませんでした。 「安全に、安心して暮らし続けることができるまち」の「安全で安心して暮らせるまちだ回答した方の割合」は、年齢が上がっていくにつれて安心だと答える方の割合が増加する傾向がみられました。 次に、「持続可能な介護保険事業の推進」について、ケアマネジャー自体が高齢になってきており、更新費用もかかることから辞める方もおり、支援がないと今後誰もする
--	--

	人がいなくなるのではないかというご意見をいただいております。 この点について、ケアマネジャーの平均年齢は上がってきており、現在の平均年齢は約54歳、60歳以上の方が3割以上という統計が出ています。国も問題視しており、検討会を開くなど、経済的、時間的負担について、可能な限り軽減を図っていくことが適当であるという意見が出されております。また、法定研修の受講期間については、都道府県の地域医療介護総合確保基金を活用することで、負担軽減することは可能であるという書きぶりもされています。 市として、更新料の補助など、今の時点では何とも言えないが、今後、国の制度の動きを見ていきたいと考えております。 最後に、訪問系のサービスが減っており、どんなサービスが必要で、その数がきちんと確保できているか確認してほしいというご意見をいただいております。 こちらについては、第10期計画を定める中で、サービスの需要と供給についてきちんと把握をしながら検討していきたいと考えています。 それでは「第9期計画の進捗状況」について説明いたします。 (事務局より資料に基づき説明)
<会長>	委員の皆様から何かご意見やご質問などございませんか。
<委員>	いろいろな指標があるが、これは市独自の指標ですか、それとも全国各市町村同じ指標ですか。
<事務局>	久留米市第9期高齢者福祉計画を作る中で、定めている指標となりますので、本市で定めているものです。
<委員>	久留米市が独自で作った指標ということですか。
<事務局>	久留米市の計画協議会の中で協議して決めている指標です。
<委員>	質問ではなく補足です。最初にケアマネジャーの研修等の話が出ましたが、私も昨年まで、県の副会長をしており県とも話し合いを重ねてきました。確保基金について、県によっては、助成が出たり、半分以上出ている県もあり、私たちも県と何度も協議を重ねましたが、結果、高齢者福祉、地域包括ケア推進課とは別に基金を取扱っているところの許可が下りないという理由で、ここ数年は基金については活用できないと言われており、福岡県が認めないというのが、現状のようです。今年度の会には入っていませんが、基金が始まってからずっと同様のため、そういう状況であることを、補足します。
<会長>	総合確保基金は、県から、医療に対してはあるが、介護に対しては、なかなか許可が下りない状況のため、市にお願いしないといけないと思っています。
3 協議事項 (1) 今後のスケジュールについて	次第の3番「協議事項」に移ります。 協議事項(1)「第10期計画の策定に向けた各種調査の実施について」事務局から説明をお願いします。 (事務局より資料に基づき説明)
<会長>	委員の皆様から何かご意見やご質問などございませんか。

<委員>	ニーズ調査の設問について、国必須、国オプション、市独自とあるが、これはどう考えてよいですか。
<事務局>	国必須は、国が全国統一で定めている必須項目です。国オプションは、国が示している項目ではありますが、自治体によって省いても問題はないとされている項目です。基本的には、これまでの久留米市は、国の必須項目及びオプション項目についてはすべて網羅する形で聞いてきましたが、今回の調査については、「認知症に関する相談窓口を知っていますか」というオプション項目について、市として、それ以上に聞きたい部分でありましたので、市独自として項目の見直しをしております。
<委員>	ケアマネジャージャーは久留米市で相対的にどのくらいの人数いますか。
<事務局>	ケアマネジャージャーの正確な数は把握しておりません。
<委員>	皆さんは、例えば、地域包括支援センターに登録しているのでしょうか、また、資格をお持ちである方だけなのでしょうか。
<事務局>	ケアマネジャージャーは居宅支援事業所に所属している方もいれば、地域包括支援センターに所属している方もいます。
<委員>	ニーズ調査の「毎日の生活について」の問の「新聞を読んでいますか」「本や雑誌を読んでいますか」を2つに分けている理由をお聞きしたいです。
<事務局>	「新聞を読んでいますか」「本や雑誌を読んでいますか」を分けている理由は、国が分けて示していたためです。
<委員>	アンケート調査の目的はなんですか。この結果を使ってどのようなアクションをしようとしているのか教えてください。
<事務局>	まずは第10期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画を策定に向けて、基礎的な材料にしたいと考えています。
<委員>	PDCAを回さないといけないと思います。PDで終わってCAがない、実施はするが、そのあとのチェックとアクションが全然ないことが非常に問題となっています。そこをぜひお願いします。
<委員>	ニーズ調査について、年齢などの基本情報を聞く設問があるのか教えていただきたい。各設問に対して年齢とクロスすることで見えてくることもあるかと思います。
<事務局>	年齢等の基本情報を聞く設問がありますので、クロスして集計をいたします。
<委員>	ニーズ調査項目について、ニーズ調査の対象者は要介護1から5を除く65歳以上の高齢者ということで、認知が進んでない方が対象になり、ちょうど人生会議を行う年齢の方のため、「人生会議を知っていますか」「どういったことを望まれますか」「生きがいは何ですか」という設問がよいのではないのでしょうか。
<委員>	地域のケア会議等に出ると、医療機関の定期受診をされておらず、予防的な診療を行っていない方が結構いるように感じています。ニーズ調査項目について、「かかりつけの医療機関を持っているか」「どういうところで、その診療科を受診されているのか」という項目を追加すると、予防的な診療の状況が見えてくるのではないかと思います。

<委員>	この調査をしたことによって、久留米市として、「こういうことを知って、それに対して、こういう施策をしたい」という大きな方向性について教えていただきたい。 例えば、地域によっても状況が違うと思います。久留米市は広いので、外出の状況についても、中心部の方は、マンションが多くて閉じこもっていたり、反対に、城島の方は、地域の繋がりは残ってるけど外出できない状況もあると思う。久留米市全体として、たてつけるのは難しいと思います。
<事務局>	ご指摘のとおり地域性は確かにあります。ニーズ調査ではお住まいの地域についてもお尋ねをするので、クロス集計を行い地域の傾向も確認をしていく予定としています。例えば、外出傾向についても、都市部とそれ以外の地域を比較する中で施策を考えるなど考えています。施策を検討する上で、現状を把握するための調査にしたいと考えています。
<委員>	暮らしの満足度や幸福度に対する設問を設けると、暮らしに対して満足に思っている方の傾向、反対に暮らしに対して不満を抱いている方の傾向がわかるのではないかと思います。例えば、体が不自由でも、食べることがしっかりとできていれば満足度が高いなど、久留米市としてどのような事業に力を入れた方が良いのかというヒントになると思います。 また、地域によって異なっていると思いますので、集計の段階で、ぜひ地域ごとに集計していただき、地域ごとの傾向や課題の分析をお願いできればと思います。
<委員>	ニーズ調査の「地域での活動」について、65歳以上の方であれば、車を運転されている方もいるため、習い事やスポーツクラブに入っている方など地域以外で活動されている方もたくさんいらっしゃると思います。地域で活動していない方は閉じこもっているという評価にならないよう、拾い上げた方がよいのかなと感じます。 また、ニーズ調査「毎日の生活」について、「自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか」とあるが、「ネットを使えるか」などの評価もあった方がよいと感じました。
<委員>	ニーズ調査で「年金などの書類が書けますか」とあるが、年金の書類は頻繁に書くものではないため、たまにしか書かないため必要ないのではないのでしょうか。 また、「バスや電車を使って1人で外出していますか、自家用車でも可」は、自家用車を使っているのか、バスや電車を使っているのかは分けたほうがよいのではないのでしょうか。免許返納や高齢者の運転は、地域によって、市街地は車がないと移動できない等あると思います。バスや電車をつかって病院に行ったり買い物に行ったりとか、日常の買い物についてちゃんとできていますかなど、そういったところも聞いていただけるといいなと思います。
<会長>	年金っていうのはもういわゆる公的書類ということかと思いますが、書き換えた方がわかりやすいのかもしれないですね。
<委員>	これからはフレイルや鬱の解決策として、地域活動に参加することが大切であり、地域活動の啓蒙が大切だと思います。それに関して、久留米地区のクラブ活動を紹介したパンフレットのようなものがあればよいと思います。
<事務局>	ご指摘や貴重なご意見等ありがとうございます。ニーズ調査の案について、改めて郵送させていただき、ご意見をいただくような機会をいただければと思います。そちらのご意見等を踏まえて、再度質問内容について検討し、また皆様方にお示しできればと思います。

<委員>	これまでの久留米市の課題を踏まえて、久留米市の独自性、本当に何に困っているのかが分かるような質問内容にしていきたいです。
<委員>	国のオプションについては、質問の削除や文言を変えるっていうのはできないということで間違いないでしょうか。
<事務局>	国のオプションは、調査をした後に国のシステムにそのまま入力することになっているので、基本的には、文言を変えることはできません。ただ、オプションのため省いて、久留米市独自の項目として追加することはできます。
<会長>	ありがとうございました。 これらの意見を参考に、各種調査を進めていただきますよう、お願いいたします。 それでは、次に進みたいと思います。
4 その他 (1)今後のスケジュールについて	次第の4番「その他」に移ります。 協議事項（1）「今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。 (事務局より今後のスケジュールについて説明。)
<会長>	それでは委員の皆さんから何かご意見はありますか。
<会長>	ありがとうございました。 では司会を事務局にお返しします。円滑な進行にご協力ありがとうございました。
5 閉会 <事務局>	牟田会長、司会進行ありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第1回計画推進協議会を閉会します。